

論文の内容の要旨

論文題目 中国語文法の意味とカタチ
—「虚」的意味の形態化と構造化に関する研究—

氏名 木村英樹

本論文は、現代中国語の文法的意味をはじめとする種々の「虚」的意味とその形態的な表れおよび構造的な表れの間を明らかにしようとするものである。

中国語の品詞分類には伝統的に「実詞」対「虚詞」という二分法が用いられてきた。実詞は実質語(content word)に、虚詞は機能語(function word)にほぼ対応する。しかし、「実」と「虚」の対立は品詞のレベルのみに留まるものではない。イントネーションなどの音声形式が担う意味、統語構造が担う文法的意味、構文が担う構文的意味、言語表現と発話環境の相互作用を基盤として成立する語用論的意味等々、語のレベルを超えてさまざまな言語形式が担う意味は、機能的意味も含めて、概ね「虚」なるもの、すなわち実質性に乏しいものである。現実の発話は、実詞が表す諸々の実質的な意味を素材とし、それらに、さまざまな「虚」的意味が有機的かつ複層的に結びつくカタチで形成されている。

典型的な孤立語に属し、形態変化という文法手段をもち合わせず、また純粋に文法形式と呼ぶに相応しい機能語にも乏しい中国語にあつては、文法的意味をはじめとする「虚」的な意味のほとんどが非顕在的(covert)なカタチで形態や構造のなかに組み込まれており、その非顕在性の度合いは、膠着語的な言語や屈折語的な言語に比してより高く、そのことが、従来の中国語

文法研究におけるさまざまな「虚」的意味の見落としや、文法記述の不備をもたらす大きな要因となっている。

本論文は、中国語の文法体系の再構築を目指す記述的および理論的研究の一環として、ダイクシスおよびアスペクトに関わる一連の虚詞的な形式と、ヴォイスに関わる構文をはじめとする複数の構文を取り上げ、従来の研究が見落とししてきたか、あるいは的確に捉え切れなかった諸々の「虚」的意味を探り出し、それらと形態的もしくは構造的な「かたち」の対応関係を明らかにし、加えて、その対応のあり方を自然言語としての普遍性と個別性という観点から特徴づけ、より一般性の高い、説明力に富む記述を試みるものである。

第I部では、指示詞、三人称代名詞、および不定称形式を対象に、狭義のダイクシス論から待遇論に及んで議論を展開する。まず、第1章(「指示詞の意味機能」)においては、指示詞の範列の基本系列である二系列の形式——“这/那”と“这个/那个”——を取り上げ、前者は事物を指さすだけの「指示機能」を担う指示詞であり、後者は名詞表現の代わりに用いる代用形式、すなわち「代示機能」を担う指示代名詞であるという意味機能上の対立を統語論的、構文論的および語用論的事象に基づき論証する。併せて、指示詞もしくは指示代名詞と呼ばれる語類が言語横断的に担う指示機能と代示機能という二種類の意味機能が、中国語では言語表現の上で差異化され、“这/那”と“这个/那个”という二種類の異なる形式によって分け担われていることを明らかにする。

事物を指さす“这/那”の指示機能を認知言語学におけるグラウンディングの観点から捉え直せば、それは、事物を話し手の立脚するリアルな空間に定位する機能にほかならず、その意味において、第1章で取り上げた“这/那”は<空間性>という意味特性を有する形式であると考えられる。第2章(「指示詞の接続機能」)では、指示と定位という二種の意味機能が<空間性>を介して類縁性を有し、その反映として、“这/那”が相対的空間詞(=「方位詞」)との間に複数の統語機能を共有するという事実を見出す。加えて、二つの名詞表現を繋ぎ合わせる“这/那”の「接続機能」が、方位詞と共有する「トコロ化機能」と「連体機能」の同時発動の産物であることを明らかにする。

第3章(「指示詞のダイクシス」)では、近称と遠称の意味論的な対立の機構を解明すべく、認知言語学における「捉え方」(construal)の観点から、事物が話し手によってどのように捉えられた場合に話し手はそれを<近い>と認識し、あるいは<遠い>と認識するのかを考察し、話し手の<近>か<遠>かの認識の決定に与る意味論的要因と語用論的要因を明らかにする。

第1章で取り上げた“这个/那个”は、事物のみを対象として代示機能を担う形式であり、人

間を対象に用いることはできない。それに代わって人間を対象に代示機能を担う形式は三人称代名詞の“他”である。ただし、“他”は、対話者の連帯の意識の外に存在する「他」者を指すことから<排他的>なニュアンスを帯び、且つ代用形式であることも相俟って、目上の人物を対象に用いるには一定の待遇論的制約が働く。第4章(「三人称代名詞の敬語制約」)では、“他”による指示と照応の現象を待遇論の観点から捉え、“他”の使用に伴う非礼感の度合いを左右する構文論的、機能論的および語用論的要因を明らかにする。

第5章では、前章までで扱った定称から不定称に目を転じ、{哪-}をはじめとする、〈人〉〈事物〉〈数〉〈量〉の問いに用いられる5種類の不定称形式を取り上げ、それらが疑問詞として用いられる際の意味上および文法機能上の対立に、「属性記述要求機能」と「個体指定要求機能」という二種類の機能の対立が関与的指標として作用しているという事実を種々の意味的および統語的事象に基づいて論証する。

第Ⅱ部では、従来のアスペクト論を見直し、アスペクトを表す形式と理解されてきた複数の形式について新たな視点からそれらの意味機能を捉え直し、併せて、今後のアスペクト研究に益する新たな方向性の提示を試みる。まず、第6章(「北京官話における「実存相」の意味と形式」)では、北京官話を対象とする事例研究として、北京官話に用いられる4種の形式を取り上げ、従来の記述がそれらすべてを〈持続〉や〈完了〉という時間相を表す形式と捉えてきたことの不備を指摘し、動詞接辞の“着”と文末助詞の“呢”については、「事柄または事物に空間的実存性を付与する形式」、動詞接辞の“了”と文末助詞の“了”については、「事柄または事物に時間的実存性を付与する形式」として捉えるべきものであることを種々の意味的および文法的事象に基づいて論証する。

第7章(「動詞接辞“了”の意味と機能論的特性」)では、動詞接辞の“了”を取り上げ、“了”による〈完了〉アスペクトの表現の成立要件を意味論、統語論および機能論の観点から考察し、中国語話者における〈完了〉の認識のあり方を明らかにし、併せて、従来見過ごされてきた“了”の機能論的振舞いに着目しつつ“了”の意味機能を明確に特徴づける。

第Ⅲ部ではヴォイスに関わる意味と構造および形式の関係をカテゴリ化と文法化の観点から論じる。本研究では動詞の形態変化を前提とする伝統的な形態論的ヴォイス論の枠組みを越え、言語類型論的な観点からヴォイスという現象をより広く捉え直し、屈折語としての中国語におけるヴォイス的現象のあり方とその特質を意味と構造の両面から捉える。まず第8章(「ヴォイスの意味と構造」)では、〈受身〉と各種の〈使役〉を表す一連の有標ヴォイス構文について、構文間の意味および構造の対立と相関の関係を有機的に特徴づけ、

カテゴリ化の観点から各構文間の対立を動機づける意味的指標を明らかにする。次に第9章(「北京官話授与動詞“给”の文法化」)では、授与動詞がヴォイス標識の機能を獲得するという方言横断的な現象を取り上げる。中国語では、多数の方言において、授与動詞が文法化により、ヴォイス構文における二種類の関与者——すなわち、受身構文における〈動作者〉と、結果構文をベースとするタイプの使役構文における〈被使役者〉——をマークするヴォイス標識機能を獲得している。本章では、北京官話の授与動詞を対象に、この種の文法化のプロセスを明らかにし、併せて、〈受動〉と〈使役〉が結果構文の有する〈結果性〉を介して〈授与〉との間に構文ネットワークを形成するという意味的連携の構図を提示する。

第IV部では三種類の構文を対象に構文論を展開する。まず、第10章(「“的”構文の意味と構造」)では、典型的な虚詞に属する“的”が述語動詞に後接するかたちの「“的”構文」を取り上げ、従來說得力のある説明が得られていない本構文の“的”の役割について、これを「動作に対する区分機能を担う接辞」と特徴づけ、その妥当性を種々の意味的および文法的事象によって裏づける。さらに、“的”の動作区分機能は、連体構造助詞の“的”の事物区分機能から拡張的に生じたものであり、接辞としての文法機能はこの機能拡張に伴うカテゴリ・シフトの結果であるとの解釈を示す。第11章(「二重主語文の意味と構造」)では、従来「題述文」と「主述文」の区別が曖昧であったことに起因して、その規定が明確ではなかった二重主語文について、その範囲を構文論的根拠に基づいて明確にし、その上で、「経験的事態を表すタイプ」と「属性的事態を表すタイプ」という、意味構造の異なる二つのタイプの二重主語文の存在を指摘し、各々の意味と構造を特徴づけ、中国語の二重主語文の特質を明らかにする。第12章(「“有”構文における「時空間存在文」の特性」)では、まず、広義に〈所有〉を表すいわゆる“有”構文の意味特徴を明らかにし、次に、“有”構文と同様に“有”を述語動詞とし、従来一括りに「存在文」と呼ばれてきたタイプの構文について、これを、知覚的な存在事象を述べるタイプと概念的な存在事象を述べるタイプとに二分し、それぞれの意味と構造を“有”構文との関連において特徴づけ、両者の対立を明確にする。併せて、知覚的な存在事象を述べる存在文のみが目的語の不定性(indefiniteness)と数量詞付加に関わる制約を受けるという事実を明らかにし、その理由を機能論的な観点から説明する。